

先行実施検証（中間報告）

資料 3 - 2

事業目的	地域包括支援センター機能拡充に関する手法の検証
事業概要	<p>■人員増員（事業費550万円） 3職種のいずれかの資格を有する職員を1名増員</p> <p>■窓口増設（事業費240万円） 保健師、看護師、社会福祉士、介護支援専門員、介護福祉士のうちいずれかの資格を有する職員1名（兼務可能）を、在宅介護支援センターに月曜から金曜の週5日、常勤換算0.5人以上の勤務時間で配置</p>
事業期間	令和2年度（4月～9月） ※検証は前年度同時期の実績を比較
検証方法	<p>①相談対応の指標（相談実人数、援助内容の比較）</p> <p>②アウトリーチ指標（訪問件数、地域活動件数、会議参加数）</p> <p>③定性的指標（支援内容のヒアリング、研修参加の回数等）</p>

①— 1 相談実人数 前年度比較

＜相談実人数＞

東第1：前年度比86人増加（391人⇒477人）

西第2：4月は前年同月比49人減少。4月～9月では69人減少（415人⇒346人）

相談実人数

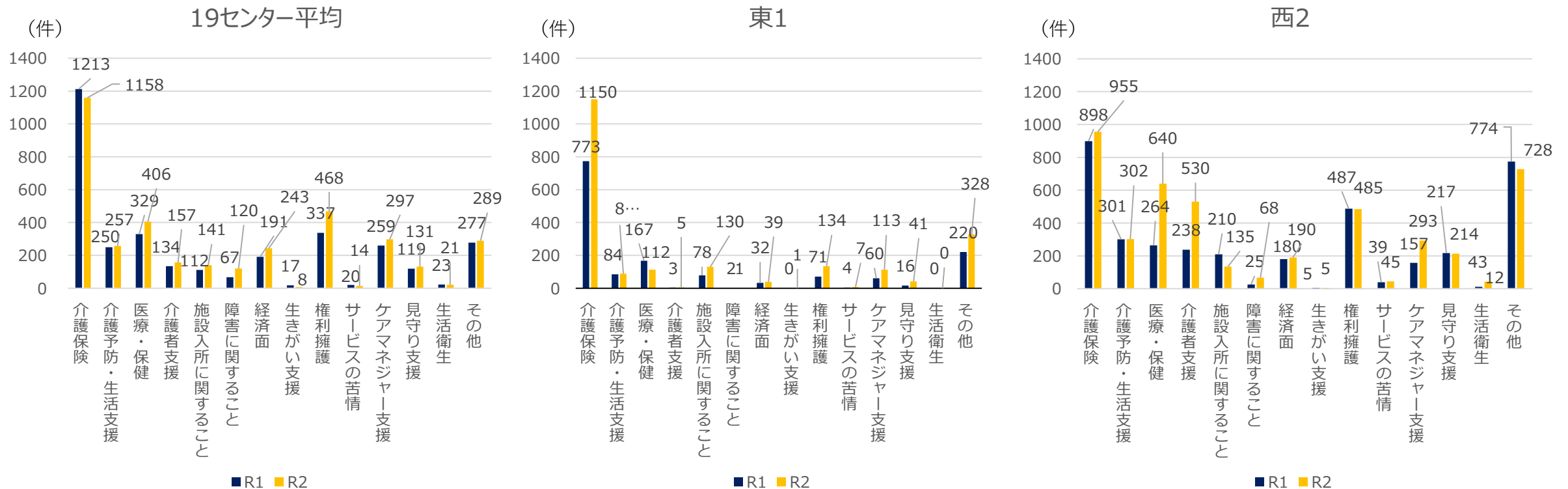
（単位：人）

圏域	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	4～9月計
東第1	R2	106	66	69	73	82	81 ↑	477 ↑
	R1	100	61	70	55	58	47	391
西第2	R2	81 ↓	53	61	62	38	51	346 ↓
	R1	130	68	60	70	38	49	415

①-2 援助内容 前年度比較

相談支援件数は、両センターとも増加（1件の相談で複数の支援を行った場合は重複カウント）
 <前年度から増加が見られた援助内容>

東第1：介護保険、高齢者虐待対応とそれに付随したケアマネ支援、施設入所に関する支援
 西第2：介護者支援、医療機関との連携、ケアマネ支援、成年後見制度に関する支援



②ー1 相談経路 前年度比較

- 訪問：東第1、西第2とも増加 ※21センター平均では減少
- 関係機関：東第1：大幅増加（うち100件程度がブランチとの連絡）
西第2：大幅減少
- 電話相談：東第1、西第2とも増加

相談経路

(単位：件)

相談経路	21センター平均		東第1		西第2	
	R2	R1	R2	R1	R2	R1
来所	84	100	21	51	97	81
電話	1024	1037	672	532	1086	906
機関連絡	861	706	1058	590	879	1174
訪問	298 ↓	306	197 ↑	158	303 ↑	282
カンファレンス	71	64	18	17	105	98
その他	42	63	6	5	48	53

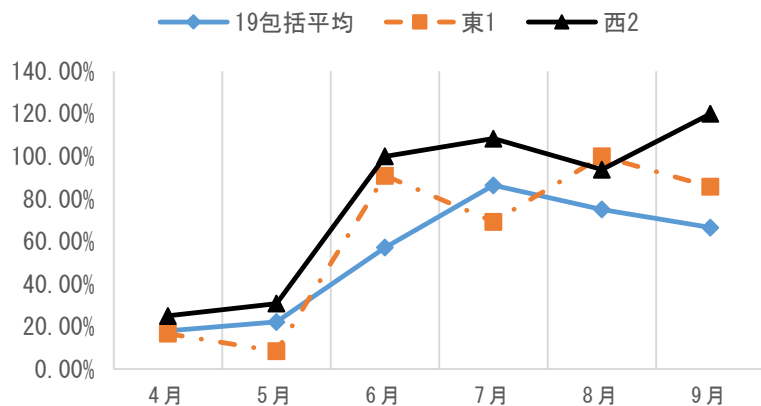
②－２ 地域活動等の実績

<アウトリーチ活動に関連する実績>

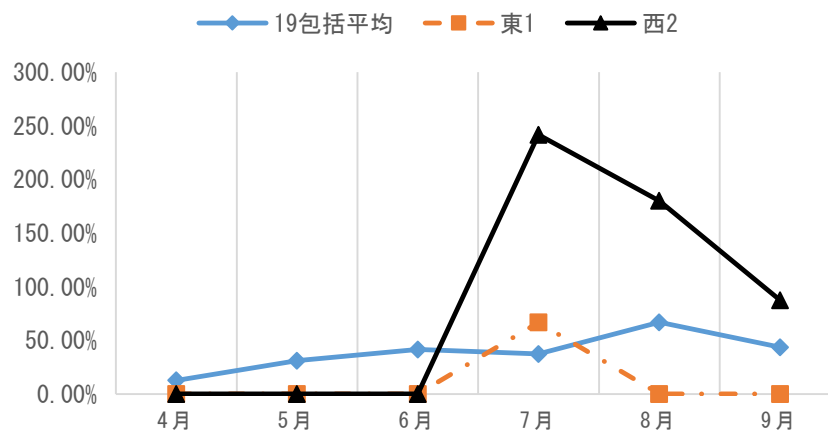
新型コロナウイルス感染症の影響から、全体として4・5月はほぼ実績が無く、6月以降の実績も前年度を下回っている。

その中で、西第2は全項目の実績がセンター平均を上回っており、アウトリーチ機能が向上していることが伺える。

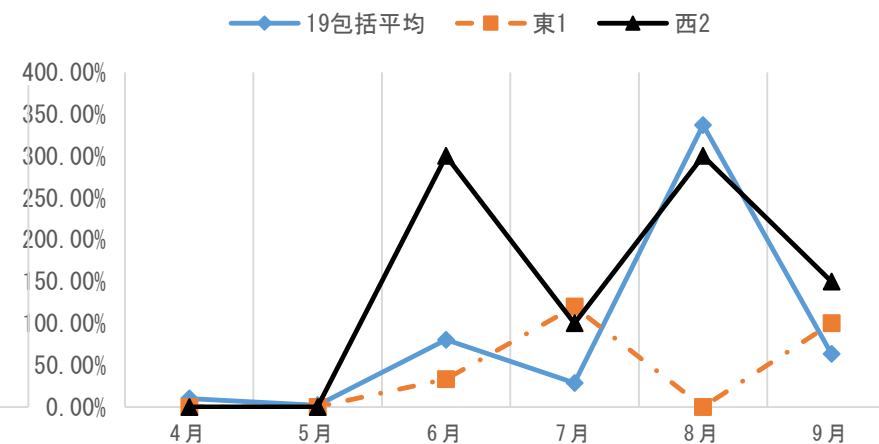
会議等



地域活動



ケアマネ支援



③ 2センターへのヒアリング内容

	東第1（ランチ）	西第2（1名増員）
現場の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・開設後しばらくはランチに直接相談が入らない状態が続いた。 ・高齢者の支援では介護保険が最も使われるため、ランチ職員はケアプラン業務の経験があったほうがよいと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍でアウトリーチ活動や新規相談件数が減少していたが、初めは電話当番から始め、少しずつケアプラン業務やケースの担当、虐待対応などに関わってもらうようにしている。
分析	<ul style="list-style-type: none"> ・初めはランチとの連携に試行錯誤があったが、6月頃からうまく連携できるようになってきた。 ・ランチは連携がうまくいく施設（事業所）でないと機能が発揮されないだろう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1名増員の5名体制となり、ケアプラン業務の忙しさも緩和されると思われる。 ・地域活動への関わりや主治医との連携も進むと思われる。
改善されたこと	<ul style="list-style-type: none"> ・ランチを設置して以来、ランチで初期相談を受けることで東第1地域包括支援センターとしても少しゆとりができ、個別のケースに丁寧に関われるようになり、課題も解決しやすくなった。 ・支援で関わった方から感謝の声をいただき、地域からも身近な窓口の存在を喜んでもらっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1名増員となったことで、ケースの話をゆっくり聞くことができるようになった。また、以前より相談への対応がしやすくなった（例：成年後見制度の相談が多かったが、家庭裁判所の手続きなど、速やかに動けるようになった）。 ・アウトリーチ活動や見守りが必要な高齢者の支援もセンター職員全員で分担し行えている。
今後の展望	<ul style="list-style-type: none"> ・地域から直接ランチに相談が入るようになれば、もっと迅速に動けるようになるのではないかと考えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人員が増え、新たな地域活動への関わりが進むことが期待される。
改善点など	<ul style="list-style-type: none"> ・ランチには相談システム端末を設置しておらず、随時の情報共有が困難。過去に同一人物からの相談をセンターとランチの両方で新規相談者として受けたことがあった。システム端末が整備されれば、連携がより円滑に進むだろう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・増員により執務室が手狭になり、改装した経過あり。 ・相談システムの端末増設が必要になる可能性がある。